

前編に続いて今回も栃木県内の取り組みを踏まえて、家族経営協定の論点を深めていきたい。

寸劇の公演で協定の普及

栃木県女性農業士会では、会員間の活発な活動を促進するため、起業・経営参画・社会参画・食と農の理解促進・家族経営協定といったテーマ別の部会を設けており、会員は各自の希望に応じて、いずれかの活動に参加している。このうち、家族経営協定部会では、長年にわたる協定の普及を目的に、自分たちで練り上げたシナリオに基づき寸劇公演を、県内各地に出向いて展開してきた。同部会では、この寸劇を中心的な内容として、昨年（2024年）2巻の動画を完成させた。

第1巻の動画における寸劇は、酪農家の設定。最初に後継者夫妻が、休日取得の難しさなどを踏まえて、他産業との違い

農業農村の男女共同参画推進の継続へ

農論 食耕



五條 満義

東京農業大学国際食農科学科准教授

に悩む会話が交わされる。そこで、家族経営協定の締結を、経営者夫妻である両親に持ち掛けるが、父親は家族で水くさいとして反対する。ある日、父親の知人が家を訪ねてきた折に、「みんなの希望を聞くのも経営者の役割ではないか」という進言をきっかけに、家族の話し合いが始動する。果たして協定の締結へと至るのか、興味深い展開である。

寸劇の動画化へ部会員が結束

そもそも寸劇の制作は、部会員全員が協定普及に関われる方法を作ろうという趣旨から発展した。日頃の農業や農家生活で実感してきた思いや

家族経営協定の取り組みを次世代につなげよう（後編）

寸劇を中心に動画を制作

各自の日頃の思いを台詞で表現

このような協定の意義や活用、の勧めを現場の実感に基づき表現したものである。

問題点、課題解決への糸口などを台詞にして、部会員全員で出し合い、部会役員がそれらを素材に、シナリオ作品に構成した。この取り組み方で3作品がまとめられ、うち2作品を動画2巻の中にそれぞれ組み込んだ。寸劇の動画化は、いわゆるコロナ感染拡大期に農村現場の各種会合が減らされたこと、また、広く若い方々にも、この動画を視聴してもらいたい」と話す。

農業農村における男女共同参画は、一定の進展はしてきたとはいえ、多くの関係者にとって未だこのころざし半ばである。農業分野の働き方改革や経営継承などでも男女共同参画の考え方を一層反映させる必要がある。以上の継続的な推進に、家族経営協定を今後

栃木県女性農業士会家族経営協定部会による

協定普及用動画を県内外へ

協定は農業委員等への女性選出の原動力にも

男女共同参画は、このころざし半ば、一層の推進へ

り、対面による公演の場の確保が難しくなったことが契機となったが、一方で、広く県内外へ未来に向かって継続的に協定の意義を普及していくための媒体を作ろうという、部会員の一致した考え方によるものである。動画のエンドロールには、歴代部会員の名前を入れ、家族経営協定に寄せてきた各人の熱意を表した。

今から十数年前に、寸劇のシナリオ第1作目を制作した当時の部会長で、今回の動画作りでも牽引役の一人となった横山玲子さん（真岡市農業委員）は、「女性農業者

農業農村における男女共同参画は、一定の進展はしてきたとはいえ、多くの関係者にとって未だこのころざし半ばである。

農業分野の働き方改革や経営継承などでも男女共同参画の考え方を一層反映させる必要がある。以上の継続的な推進に、家族経営協定を今後